

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	S-tep キッズ			
○保護者評価実施期間	2025年 5月 15日		～	2025年 6月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数)	22名 73%
○従業者評価実施期間	2025年 6月 1日		～	2025年 6月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名 100%
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 7月 16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・同一法人内に生活介護、B型があり、卒業後の選択肢がある事。（今後GHも出来、安城には特養も完成）	・面談時には学年に合わせた将来の話をしたり、保護者の方の進路相談に対応している ・新規利用の方への「つながる支援」の説明を行っている	・見学や実習希望の密なやり取り、本人の強みなどの伝達 ・実習などを経てわかった必要課題などをフィードバックし、放デイの現場で練習していく
2	・職員間の連携が良く、チームとして一貫した支援ができる	・休憩時間やすき間時間に情報交換し、声かけの統一を図っている ・職員全員が支援内容や課題を把握している	支援中の様子や子どもの成功体験を写真・動画で記録し、職員間・保護者との連携に活かす。
3	・保護者対応が丁寧で、緊急対応など相談しやすい雰囲気がある ・保護者との連携が密で、成長に応じた支援が可能。	・ご兄弟の学校行事の際にお受け入れをするなど家族支援を大事にしている。 ・送迎引継ぎ時に随時情報交換を行い「今の本人に必要な事」を考えている。	・学校での課題内容の把握や、卒業後の行き先の仕事内容などを把握し、それに合わせた取り組みや課題を設定していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域や関係機関との関りが薄く連携が取れているとはいえない	・地域の課題や他機関の役割・支援内容を理解できておらず、連携の必要性を認識できていない ・他機関との連携よりも自事業所内で完結させようとする傾向がある	・利用児童に関わる支援機関とケースごとに面談や情報共有の機会を設ける ・他機関の支援内容を理解し、自事業所が補完・協力できる部分を明確にする
2	・曜日によるカリキュラムの変化がない	・利用者様の障害区分が一定でないため全員に対して同一カリキュラムを提供することが難しい	・必要な補助具や、行う上での配慮すべき部分を洗い出し、補助具の購入や作成を進める ・カリキュラム自体の細分化を検討
3	・新規利用者の獲得が難しい	・市内の放デイの数の増加 ・こちらの空きと利用希望のミスマッチ ・他事業所と比べて「選ばれる理由」が見えにくい	・強みを明文化し、全職員が自信を持って説明できるようにする ・現状の空き状況などの情報を関係機関へ定期的に発信する